

# 茨城いのちの電話

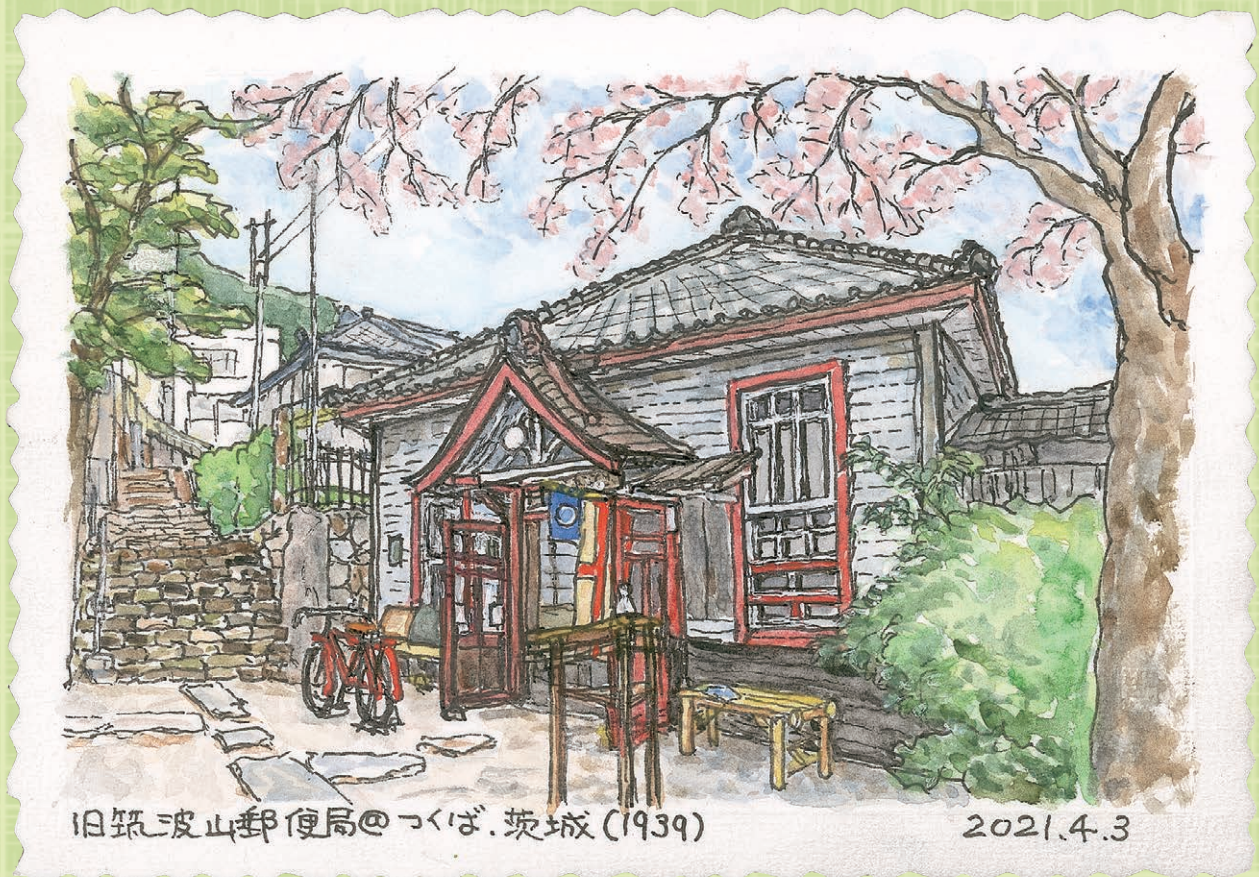
つくば（相談電話）

029・855・1000



水戸（相談電話）

029・350・1000



旧筑波山郵便局@つくば、茨城(1939)

2021.4.3

2021年4月  
第103号

## 特集：家族 その1

現代における家族の難しさ、そして家族の行方 …	2~4
受信状況 ……………	4
私たちの活動：LINE相談、コロナ対応など ……	5
ご支援ありがとうございます ……………	6~7
コラム ……………	8

筑波山神社から「つくば道」を少し下ると、1939年に建てられたレトロな建物があります。1975年以降使われないままでしたが、2008年に筑波大学の学生と地元の人々の手で再生されました。

## 現代における家族の難しさ、 そして家族の行方

三輪 壽二（茨城大学）



### はじめに

10年以上になるとと思いますが、「いのちの電話」の養成研修で家族をテーマに話をさせてもらっています。おもにその中で話をさせてもらっていることは2つです。1つは、家族を心理学的に考えるとどのように見えるか、心理学ではどのような家族をよい家族と考えているか、ということです。つまり、理想の家族はどんなものか、とか家族の機能は十全に働いているか、ということです。これは筆者が臨床心理学を専門にしていることから出てくるテーマです。もう1つは、家族という集団はそれだけで単独に存在しているわけではなく、地域や国家といった家族以外の集団との関係の中にあるわけですから、家族の在り方は地域や国家の状況に多かれ少なかれ影響を受けるわけです。そのため、家族と他の集団との関係という視点から今の家族の状況を考えることが、もう1つのテーマになっています。この小論もその流れで家族について考えてみたいと思います。

### I. 家族という集団

まずは、家族という集団だけを取り上げて、家系とか理想の家族といった視点で考えてみましょう。

私たちは何となく家族が血縁集団だと思っているのですが、家族の出発点は夫婦（事実婚も含めて）ですから、そもそも他人の関係です。つまり、家族が血縁集団だというのは半分くらい間違っています。血縁は親子、兄弟姉妹だけです。しかし、欧米では、家族の中心的関係は夫婦として位置付けられることが常識ですし、家族心理学的には家族の良し悪しは夫婦によって左右されると考えられています。

さらに厄介なことに、親子でも血縁が決定的だとは言えません。少し古い映画ですが、福山雅治が主演していた『父になる』という映画がありま

した。そこでは、病院で赤ん坊が間違えて入れ替わり、それが10年近くたって発覚し、2つの家庭がこの問題をめぐり悩むわけですが、いまさら親子の縁を白紙に戻せるはずもない。つまり、一緒に暮らした時間とその間の関係の集積が家族を作るということになります。血縁のみを取りあげて家族を位置付けるのはしっくりこないわけです。養子縁組も夫婦関係も血縁がありませんから同じことです。ですから、家族とは血縁あるいはきわめて深い情緒的関係を有する集団ということになるのでしょうか。しかし、深い情緒的関係の定義はあいまいなままですし、血縁は単なる生物学的事象でそれ自体に価値があるわけではありません。実は、私たちはよくわからない集団をととても大切に思っていることになります。

### II. 家族を心理学から見てみる

さて、少し話を変えて、心理学から見た家族の話をしていきましょう。家族は、心理学的には2つの方向で研究されることになります。1つは遺伝です。親子とその連鎖の先にある家系という問題です。もう1つは、よくわからない集団である家族の機能（良い家族等）といった問題です。

前者は、天才、精神障害、知的障害等の遺伝研究です。遺伝子研究がない頃は、足で調べるという方法で行われていました。これはまさに血縁の問題です。ある人が精神障害であれば、その兄弟姉妹、両親、祖父母等、先祖を次々に調べていくわけです。その際、どのような暮らしをしていたかは問われず、ひたすら精神障害であったかどうかだけが取り上げられて調査されるという具合です。この血縁に関わる心理学研究は、家族を血のみでつながる1つのまとまりとしてみなすわけです。一見、無味乾燥な気がしますが、そうした調査の先には、「あの家族との縁組はまずい」みたいな結果として跳ね返ってくるのが現在でも（現在は昔よりも？）起きるわけで、その影響は

新しい家族の誕生に大きな影響を及ぼすのです。

2つ目の家族の機能についてですが、これは究極的には、望ましい家族像を明らかにしようとするものです。代表的な研究にオルソンという人の家族機能研究があります。平たく言えば、家族外の世界と適応しながら家族が仲良しの条件は何か、ということです。オルソンは、適応性、凝集性、コミュニケーションの3つがそれを測るための判断基準だ、と言っています。そして、適応性と凝集性が良い状態にある家族はそれを支えているコミュニケーションが良好な状態にあるから、結論的には適応性と凝集性が重要な判断基準になると考えています。では、適応性、凝集性とは何か。

適応性とは、家族が問題に突き当たった時の解決主体の柔軟性ということです。たとえば、夏休みに家族でどこかへ出かけることになった、どこに行くか？ 行き先の選択は家族にとって課題です。他の希望があってもそれを抑えて行き先をいつも父親が決めるということでは、解決主体が偏り過ぎており柔軟性に欠けるということです。この例は何でもないことのように思うかもしれませんが、それでも積み重なれば家族の雰囲気は悪くなるでしょうし、中学生にもなれば家族一緒のお出かけを子供が拒否するようになるかもしれません。まして、これが子供の進学先、就職先の選択という課題であれば、誰が決めるのが妥当なのかでしょうか。

もう1つの判断基準である凝集性は、本論でも触れた家族成員間の情緒的つながりです。これは家族の関係がほっとする、安心する、何でも話せる等の情緒的つながりのことです。これはわかりやすいでしょう。

ただし、オルソンは適応性と凝集性が高ければよいとは考えていません。いずれも「ほどほどがよい」と考えています。たとえば、あまりに凝集性が強すぎて家族大好きが高じすぎるとその家族から離れられなくなる、つまり、子供の自立が進みづらくなり、結果的に子供に様々な臨床的問題が生じたり、新しい家族の誕生に影響があるかもしれない、と考えているわけです。高い凝集性は干渉の高さとも関係しやすいため、親の庇護と干渉が子供にどっぴり押し寄せ、子供が窒息するという場合もあるということです。逆に、凝集性が低過ぎれば、親が子供の面倒を全く見ずほうりだしておくネグレクト状態が想定されるわけです。何事も中庸が肝心、ということでしょうか。

### Ⅲ. 家族を取り巻く環境を考える

冒頭に家族は他の集団から影響を受ける、と書きました。その話をしましょう。

4つの同心円をイメージしてみてください。最も中心に近い小さな円が自分、その次の円は家族、そして3つ目は地域、最後の最も大きな円は国家。つまり、自分があってそのすぐ近くには親や兄弟姉妹という家族がいる。その家族の外には隣のおじさん、おばさん、子どもたち、友達、それが地域で家族の次に大切な人たちだ。そしてその先には日本という国家がある。これはイメージしやすいものだと思います。そのイメージに「大切と感じる」という心情を重ねていけば、自分→家族→地域→国家という順番でそれぞれを大切にすると、心根が形成されていきます。少し前まで小中学校の道徳の授業の副読本に指定されていた『心のノート』はこのように描いており、自分を大切にすることは国家を大切にすることだ、という奇妙な帰結を示していました。このトリックは4つの集団を単純な同心円にしてしまうことなのですが、私たちはこの奇妙な帰結に結構ひっかかるのです。同心円にならないものを重なる円にしているとするならば、つまり、この奇妙な帰結に一定の許容を与えるには、「国家がしっかり個人にセーフティネットを張る」という条件が満たされねばならないのです。

「いのちの電話」で話をさせてもらい始めた頃は、この条件がないまま、本格的に地域が解体し、家族の愛情や大切さだけが喧伝されて「家族だけで自分たちを守る」という考えに知らぬ間に染まっていった時期です。地域はうとうしいこともありながら互助機能を持っていた地縁という機能を失い、ただ住む場所に変化しました。実は、井戸端会議が消失することとモンスターペアレントといった失礼な言葉が登場することは無関係ではないのです。

大都市圏への人口移動は止まらず、過疎地は増加しました。他方、国家はセーフティネットを十分に張れないまま、あるいは張らないまま家族重視を打ち出したのでした。つまり、家族は家族の手で守らなければならない、他者からの支援を期待するな、ということです。これは新自由主義という経済・社会システムの必然ですが、この結果は家族にさまざまな影響を及ぼしました。

経済格差が広がるのが当然の帰結の経済社会システムですから、残念ながら、子供の貧困は当た

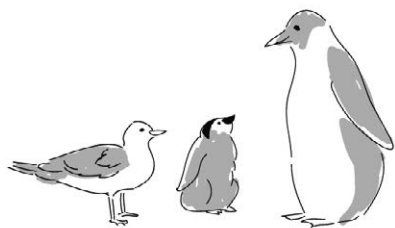
り前です。10年前にはすでに見えていたことです。この状況が定着する中で、一定程度持てる家族は凝集性と干渉性が高く適応性の低い家族状況になっていきましたし、持たざる家族は凝集性が低く適応性の高い家族に近づきました。もちろん、この言い方はたくさんの例外を含みますが、筆者が臨床現場で会う子供の状況や家族から聞く話はこの傾向に彩られていました。ただ、どちらの家族状況に転んでも子供は学校に来られなくなったり、自傷行為のような臨床的な課題が目につくようになったのです。

10年ほど前まではこの状況を、家族が社会にむき出しに対峙せねばならない状況として研修会でもお話ししてきました。しかし、さらに進化したこの経済社会状況と、昨年からのコロナの影響で、ネット社会、オンライン社会がすでに私たちの暮らしの常識になりつつありますし、この流れを止めるのは困難です。ネット社会は老若男女に

ほぼ平等に情報を与えてくれるものでもあるのですが、他方、大人・子供を問わず個々に世界とむき出しに対峙させる社会でもあるのです。大人も子どもも他者の了解や承認を得ることなく（もちろん一定の条件はあるのですが）、ネットの中に飛び込むことができるからです。

現在は、家族が国家にむき出しに対峙せねばならない状況だけでなく、大人も子供も個々に世界と対峙するような状況です。ネット社会みたくなものの変な方向に牙をむけば、家族にとって、さらに深刻な事態あるいは新しい事態が生じる可能性があります。

筆者の想像はきっと思い過ごしでしょう。しかし、いまは、少し立ち止まって家族一人ひとりの思いに耳を傾けてみる、家族を大切にすることはどういうことかを時折考えてみる、といったちょっと照れ臭いことをする時期のような気がします。



## 受信状況

1985年6月1日～2021年3月末現在

総受信件数

**963,646 件**

うち当期受信件数

(2020年10月1日～2021年3月末現在)

**7,721 件**

男 3,860 件 女 3,861 件

フリーダイヤル受信状況		男 (自殺傾向)	女 (自殺傾向)	受信件数
2020年	10月10日	18 (2)	16 (7)	34 (9)
	11月10日	30 (2)	16 (6)	46 (8)
	12月10日	21 (0)	23 (4)	44 (4)
2021年	1月10日	17 (6)	16 (5)	33 (11)
	2月10日	21 (5)	17 (5)	38 (10)
	3月10日	15 (3)	20 (4)	35 (7)

毎日フリーダイヤル受信状況		男 (自殺傾向)	女 (自殺傾向)	受信件数
2020年	10月	110 (42)	140 (49)	250 (91)
	11月	114 (35)	112 (42)	226 (77)
	12月	115 (31)	150 (43)	265 (74)
2021年	1月	119 (37)	126 (24)	245 (61)
	2月	92 (24)	135 (26)	227 (50)
	3月	91 (33)	100 (22)	191 (55)

## いのちの電話で LINE 相談

茨城いのちの電話ではこれまでの電話相談に加えて、LINE を使った相談を開始します。

従来の電話相談では若い方からの電話は少なく、これは彼らが電話よりも LINE や Facebook、ツイッターといった SNS を使うことが多いことも一因と考えられます。一方で若年層では死因の第一位が自殺となっており、昨年からの新型コロナウイルス感染症拡大下では若い女性の自殺増加がニュースでも報じられています。

長期にわたって人の交流が制限される中、誰にも相談できずにいる方々が安心して辛い思いを吐き出せる場を提供したいと、私たちは相談員の中から希望者を募り、NPO 法人東京メンタルヘルス・スクエアのご支援を受けながら研修を行ってきました。LINE 相談のための資金確保のため、クラウドファンディングも立ち上げました。<https://camp-fire.jp/projects/view/369278>

2021 年 5 月末から開始を予定しています。私たちの新たな試みへのご支援も、どうぞよろしくお願いいたします。



## 開局 35 周年

茨城いのちの電話は 2020 年 6 月に開局 35 周年を迎えました。内部での記念行事と公開の記念演奏会を予定していましたが、残念ながら新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、どちらも中止せざるを得なくなりました。

相談員の高齢化と人数減少は続いており、「24 時間 365 日」の体制維持も難しくなっている現状に加え、感染予防の観点から深夜帯の中止なども一時余儀なくされましたが、予防対策を講じつつ、できる限り活動を続けていきたいと思っています。

## 茨城いのちの電話におけるコロナ対策について

コロナ禍のなかで一件でも多くの相談を受けるべく、相談員は三密を回避し、細心の注意を払って相談活動を継続しています。

例えば、公共交通手段を利用する相談員は一時活動を停止したり、事務局スタッフの一部はテレワークを行いました。個々の相談員の事情により休務も可としました。そのほかには非接触型体温計やフェイスマスク等を購入し、相談活動を行う前後には消毒を徹底し、複数換気扇の設置をしています。また、夜間の電話受信を一時中止したり、24 時まで短縮して受信したりしました。公開講座の一部はオンラインで開催したものの、コンサートなど残念ながら中止を余儀なくされたものもあります。相談員研修も昨年 3 月から 7 月までは中止となりました。一方、コロナ禍による様々な悩み相談に対応するため、毎日フリーダイヤルを昨年 7 月から受信しています。

以上のように様々な対策を行いつつ、今後もよりよい相談活動を行えるように努めてまいります。

## きれいは、きたない4 映画（その1）

「ゲルマニウムの夜」大森立嗣、「冷たい熱帯魚」園子温、「オンリー・ゴッド」レフン、「ピンクフラミンゴ」ウォーターズ もし見ようのお方あれば、こんな下らぬ話なぞ読まんと、さっさとご覧あれ。

4作品は、世界最大級の問題「いい子ぶりっ子問題」又の名を「金魚のフン問題」「私が私であり、あなたがあなたであるとは問題」「being 問題」を扱う。いいねをぎょうさんもらうだけで、ご満足のいい子らは、これら問題を見せつけられたくないもんで映画の纏う残酷な衣だけに目がいき、その中身に目をつぶる。なんで低レビューばかりとなる。ゲルマニウムは、カトリック修道院を舞台として「神を冒瀆する者が一番神に近い」ということが語られる。はあ？神に単に付き従うフンにとって、存在 being とは、何？神が絶対者ならフンなぞ要らんだろ。対してキリシタン弾圧を扱う「沈黙」では、踏絵を踏まずにいるも、踏むにしても神へのぶりっ子しか描けていない。残念だ。遠藤周作よ、それでエエんかい？破戒坊主一休は「ブツなんかにじゃダメだ」と言っとるやんけ。あんたは、ゼロにすぎない、ほやからあんたは、宇宙よりもでかい、そういうことやる。踏絵なんて、どうでもいいじゃろがバカモン。相談の大きなありようは「あんたは、誰かに対するいい子じゃなくていいんだぜ。あんたは、あんたなんやから。」を言外に伝えることなんや。Being 自分が自分であることの反対語は、善だ。「善なれ」がある時、自分を押し殺せになる。それは、他者からも自らも人生の中で大小、無数に発せられる。木村花も、それに殺された。人生は、その「殺せ、死ぬ」の善なる弾丸が飛び交う中それをはねのけ「俺だ！」と言い続けることにかかっている。死ぬとも言われないなんて「どうでもいい」ヤツってことだ。そう言われる程に「どうでもよくない」あんたの生きる価値が増すんだ。多くの飼いやられた者達は弾丸すら見えず自らが弾丸になっていることに気づかない。

ゲルマニウムを機に第一半生が終わって自分は、死んで第二半生が始まり、生まれた。「Welcome このどうしようもない世界へ」と自身に言ってやる事ができた。金になぞ換算できん事やったけど、たった1800円の映画に1億円払ってもえかった、払わなかったけど。自分が弾丸に撃ち抜かれていた時に（発したのは、全てを受け容れると言うヤツだった。その言葉の矛盾にすら気づかずに使う）大森立嗣が映画を創り出合いが生じたことは奇跡だ。それまでの自分は撃ち抜かれからの回復を求めている。それは様々な人々の援助もあり徐々に達成されつつあるかに思えた。だが、その回復の求めは死んだ。「そうだ、このまま地獄へ落ちていけばいいのだ」が生まれた。そのことで完全に解放された、自由だ。自分と世界との関係の中で事件が起きた時、無意識や相談という対話や縁や行動、出会いらが共同で作業しあって奇跡を起こすことがありうる。誰の上にも。不幸を肯定するわけじゃないが大いなるきっかけではある。

原作小説の「俺は、こう考えて行動した」の説明がなく、いきなりバンと行動が映し出される。頭の理解を吹っ飛ばして体の奥の奥にパワフルに振じ込まれてくる暴力だ。逃げるな、受け止めるよと。小説は、わかりやすく映画は、わからない。これが肝心、わかりやすきは、意識的理解にとどまり心に革命を起こさない。わからないことは、無意識に達し発酵、発火、爆発、対立、生死を繰り返した後、改めて意識に立ち出でる。エネルギーはわかることの比ではない。「あなたの言うこと、わかるよ」なんていい人ぶるんじゃねえ。（つづく）

ケイティ

### 電話相談員募集

あなたも相談員になりませんか。

電話相談員養成講座の研修参加に関する  
問合せは、常時受けつけております。  
事務局へお問い合わせください。

（事務局）

つくば TEL 029-852-8505（平日 9時～17時）  
FAX 029-852-8355  
水戸 TEL 029-244-4722（平日 12時～17時）  
FAX 029-350-1055  
ホームページ <http://www.iid.or.jp>

### 〈編集後記〉

新型コロナ禍の中、物忘れの酷くなった母親を車に同乗させ、桜並木の中を何周もして、花見に行って来ました。ご縁を頂いている人のなかで80代の母親と50代の息子の親子が居て、母親は一人で息子の6回目の出所を待っていて、訪問した際に母親の愚痴・嘆きを傾聴するなかで今回の特集の家族・親子とは何か?を考えさせられる事でした。(MI)

社会福祉法人  
茨城いのちの電話

発行人：幡谷 浩史 編集：茨城いのちの電話広報委員会 表紙絵：岡崎 祐一  
事務局：〒305-8691 茨城県筑波学園郵便局私書箱60号 TEL 029-852-8505  
ホームページ：http://www.iid.or.jp FAX 029-852-8355

この広報紙は、共同募金からの配分金で作りました。